

2 地域戦略

戦略1：上都賀地域の強みを伸ばす「施設園芸経営体の所得向上」

(1) 対応方向

上都賀地域の施設園芸は、品質面を中心に産地のブランド化が進んでおり、新規就農者に占める割合も高いなど、更なる発展が期待できます。

そこで、所得向上に意欲ある経営体（いちご、にら、トマト、花き）を明確化し、所得目標を達成するための課題を個別に洗い出し、改善に向けた取組（基本技術の再点検、新品種・新技術の導入、省力化・分業化の検討・推進、ICTを活用した「栽培管理の見える化・共有化」、雇用労働の導入等）を総合的にマネジメント（重点的な個別指導、集団指導等）します。

(2) 主な指標

項目	現状(R1)	目標(R7)	備考
いちご・にらの収量向上率 ※1	100% 100%	110% 110%	農業振興事務所調べ
中核経営体数 ※2	19経営体	30経営体	農業振興事務所調べ
新品種・新技術導入経営体数	156経営体	260経営体	農業振興事務所調べ

※1 所得向上に意欲ある経営体の単位あたり収量(t/10a) 現状・目標の上段はいちご、下段はにら

※2 上都賀地域主要園芸品目（いちご・にら・トマト・花き）における販売額3,000万円以上の経営体

(3) 取組方策

1) 所得向上に意欲ある経営体の明確化と課題の洗い出し

若手施設園芸経営者等を対象に経営コンサルティング（個別訪問による聞き取り）を実施し、新たな経営展開に意欲的な施設園芸経営体を明確化します。

①対象若手施設園芸経営者等

- ・いちご（青年部）：42名 + 新たな経営展開に意欲的な施設園芸経営者
- ・にら（研究会）：20名 //
- ・トマト（青年部）：17名 //
- ・花き（きく、ゆり、鉢花、デルフィニウム）：29名 //

②経営コンサルティングの内容

- ・現状の所得で満足 or もっと所得アップしたい
- ・現行経営の問題点・所得向上のために有効手段（経営展開に取り組む事項）等

2) 所得目標達成に向けた取組計画の策定

所得目標達成に向けた課題を個別に洗い出し、改善に向けた取組計画（①基本技術の再点検、②新品種・新技術の導入、③ICT等の先端技術を活用した栽培管理の「見える化・共有化」、④省力化・分業化の検討・推進、⑤雇用労働導入の検討・雇用管理の推進等）を個別に設定します。

3) 目標達成に向けたマネジメント

個別施設園芸経営体ごとに設定した目標をクリアーするため、関係機関団体と連携して、個別相談、個別・集団指導、伴走支援等による目標管理マネジメントを行い、集約化や規模拡大などにより所得向上を図り、収益性の高い「上都賀地域施設園芸中核経営体」を育成します。

【マネジメントイメージ】

① 基本技術の再点検

現行栽培の問題点を明確化し、若手施設園芸経営者等を中心とした組織での栽培講習会や適期の個別指導、自主的な現地検討会等の開催を支援します。

② 新品種・新技術の導入

新品種・新技術の展示ほ等の設置に併せ、調査段階からその特徴や特性を広く若手施設園芸経営者等に情報提供し、早期普及を図ります。

また、新品種や新技術の導入が経営改善に有効であると考えられる経営体に対し、新たな経営体系の確立を支援します。

③ ICT等の先端技術を活用した栽培管理

ICT等の先端技術を導入した経営体に対して、優良経営体で得られたデータの分析・活用を支援するとともに、地域にあった栽培管理技術の共有化を進めます。

④ 省力化・分業化の検討・推進

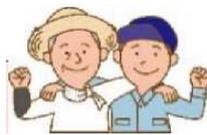
施設園芸経営において、多くの労働時間を占める収穫・調整作業の省力化を図るため、省力化機械（例：にらそぐり機）の導入や規格の簡素化、共同調整作業等による分業化の検討を進めます。

⑤ 雇用労働導入の検討・雇用管理の推進

積極的な経営規模拡大や家族の高齢化等による経営規模の維持を図るため、労働力導入の検討や導入準備、雇用管理を支援します。

(4) 推進体制と役割分担

<若手施設園芸経営者等>



<所得向上に意欲ある経営体の明確化>



<経営展開方向の目標設定>

<経営体への重点指導・支援>

